

鳳寿園だより

介護老人福祉施設・短期入所生活介護
通所介護・訪問介護・居宅介護支援

〒871-0821 築上郡吉富町大字幸子 803 番地の 1
TEL: 0979-23-6111



11月19日、100歳のお誕生日を迎えられた乙女トミコ様のお祝いのため、今富吉富町長が来園されました。表彰状や花束を今富町長から頂き、初めは緊張した面持ちの乙女様でしたが、徐々にいつもの素敵な笑顔がみられ、皆さんとお話をされました。

乙女トミコ様の100歳のお誕生日を一緒にお祝いさせていただき、職員一同、大変喜ばしく思います。これからも、どうぞよろしくお願いたします。



吉富町の広報誌「よしとみ」1月に掲載されています

大正7年11月15日生まれ

もちつき



12月28日、みんなで餅をつきました。
つきたての餅をご利用者がいとも簡単に丸く整えられ、その早さは職員が追い付けないほどでした。皆さんの頑張りで、予定時間より早く終わることが出来ました。今年も新年を迎える準備はばっちりです。
終了後は、ぜんざいと甘酒を美味しくいただきました。



けいちくらんともプラス 京築RUN伴+ 2018



京築RUN伴+2018とは、「認知症になっても安心して暮らせる町」を目指して、認知症の方やその家族、支援者、一般の子どもからお年寄りまでみんなでタスキをつないでゴールを目指すプロジェクトです。



11月3日は京築RUN伴+ 2018 (けいちくらんともプラス 2018) に参加しました。今年も当園が中継地点の一つなり、イメージカラーのオレンジの風船とポンポンを振って、多くのランナーに声援を送りました。

コスモス見学

11月に入りまして、デイサービスでは三光のコスモスを見学に行きました。

色とりどりのコスモスが咲き誇る中でのドライブは、皆さんにとっても好評でした。



秋のふれあい会「喜楽」

10月21日、園では秋のふれあい会「喜楽」を開催しました。

今回は中津市を中心に活動をされています「琉球國祭り太鼓」さんに、ダイナミックなエイサーを披露していただきました。大きな獅子舞も登場し、会場は大変盛り上がりました。また、ハロウィンも近いということで、仮装をした職員と一緒にみんなで体操をしました。皆さん、腕が大きく上がっています！沢山笑って、体を動かした1日でした。



当園のさらに詳しい情報はこちら！

社会福祉法人 緑風会 公式ホームページ <http://ryokufu-k.jp/>
お知らせ情報等を順次更新しております！ぜひ、アクセスしてみてください！
ご意見等ございましたら、ホームページの「お問い合わせ」からお申し付けください。



芋ほり

10月、デイサービスのご利用者と職員で芋ほりをしました。このお芋はご利用者が6月に園内の畑に植えられたもので、みんなでお芋ができるのを心待ちにしておりました。収穫したものは、蒸しパンなどのデザートになり、皆さん秋の味覚を堪能されていました。



吉富小学校交流会

10月29日と11月1日の2日間、吉富小学校の4年生との交流会がありました。生徒さんがたくさんの手作りのゲーム用意してくださり、一緒に楽しみました。



魚釣りやすごろく
など、皆さん真剣
です



生徒さんから
もらったメダルと
はい、チーズ！

HAPPY BIRTHDAY!!

10月



81歳

11月



84歳

12月



77歳



86歳



78歳



78歳



91歳



82歳



93歳



76歳



88歳



100歳



78歳



謹賀新年

昨年中は格別のご厚情にあずかり、心より御礼申し上げます。
本年も、更なるサービスの向上に努めて参りますので、
より一層のご支援、お引立てを賜りますようお願い申し上げます。



施設長 新年の挨拶（平成三十一年）

明けましておめでとうございます。旧年中はご利用者、ご家族をはじめ地域住民の皆様、行政・医療・福祉関係者の方々より格別のご厚情を賜り、心から御礼申し上げます。

毎回申しておりますが、仕事納めもなく盆正月も普段と変わらず介護に勤しむ職員とともに二十三回目の新年を迎えました。在宅介護に励んでおられる介護者の方々の苦労は想像以上かとお察しいたしますが、介護は人の生活に欠かせない大切な仕事であり、「介護離職ゼロ」が重要政策として位置付けられているように、福祉に携わる職員が日本経済をも支えていることは明白な事実でございます（今年のGWは新天皇即位により十連休ということですが、私たちはいつもどおり介護に励みます）。

さて、今日、我が国は超高齢化、超少子化、無縁社会などいくつもの課題を抱え、かつて人類が経験したこともない領域に突入しています。団塊の世代が七十五歳以上に達する二〇二五年問題をはじめ、二〇四〇年には高齢者人口がピークを迎え、人口減により半数の自治体が消滅するといったセンセーショナルな報道もございませぬ。「団塊世代は逃げ切り世代、団塊ジュニアは貧乏くじ世代」とも言われておりますが、正に私は団塊ジュニアですので、親の介護や自身の年金、医療・介護にかかる負担増など、将来の社会保障に対する不安は尽きませぬ。

そのような中、政府は外国人労働者の受入を促進すべく、改正出入国管理法を成立させました。とりわけ介護分野においては、五年間で六万人の外国人介護職を受け入れるとしています。

当園は勤続年数の長いベテラン職員が数多く活躍していますが、新規の雇用は容易でなく、外国人介護人材に関心がないわけではございません。しかしながら、既存の在留資格で受け入れた外国人介護職は十年間で五千人程度で、言葉や文化の違いなどにより途中で帰国する方もいます。また、中には安く労働者を確保できると誤解している経営者もいるようですが、監理団体への手数料



や住居の確保、日本語教育や介護福祉士資格取得のための費用等についても配慮する必要があり、国際的に人材的に人材獲得競争が激化する中、まずは日本人が魅力を感じるような労働環境と介護の社会的地位向上を国民総力で築いていく必要があるのではないのでしょうか。常々、私はご利用者と対等な関係を築くことを意識しておりますが、「利用者はおお客様であり、対等な関係」というのは怪しからん」とお叱りを受けることもございます。ただ、私が願う対等な関係とは、職員に対してもしも労働者の言葉を受けようという関係は、職員に対してもしも労働者の中にはご自身のお気持ちを言葉にすることが困難な方もございますが、ご家族の権利意識の高まりを実感することも多ございます。また、自立支援にはご利用者やご家族のご理解が不可欠ですが、ヘルパーや介護職員を単なるお手伝いと考えている方もいらっしやいます。職員の処遇改善も重要ですが、福祉を仕事として選んだ理由は「誰かの役に立ちたい」という純粹な気持ちによるものであり、ご利用者やご家族からの感謝の言葉が職員の奮起につながるかと存じます。

また、かつて特養の入所待機者数が全国で五十二万人と報道されたこともあり、地域のニーズや今後の動向を顧みることなく政治は施設整備を推進しましたが、深刻な人材不足に加え、有料老人ホームなどの乱立により当初の見込みどおり稼働できず、経営が行き詰った法人もあると聞きます。特に建設に当たり公費が投入されている場合は、開設後の運営状況についても行政による適切な指導が求められます。単に施設を増やしても働き手が確保されず、介護の職場を転々とする者も少なくない状況では介護の質は低下する一方です。私たちは社会福祉法人として地域のニーズに留意し、地に足の着いた福祉経営を営む必要がございます。

つきましては、引き続きご利用者、ご家族お一人お一人に分け隔てなく接し、現場で懸命に働く職員を守り、不器用ながらも信頼関係の構築に努めて参る所存でございますので、本年も変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム吉富鳳寿園

施設長 三笠直樹

